

第12回市民公開がん講演会を8月25日無事行うことができました。

昨年度から本講演会企画責任者の立場となっておりますが、昨年は前任からの引き継ぎで、最初から企画運営に携わったのは初めての経験でした。



講演会の様子

これまで著名人の方をメインにする企画が多い中、今回もがんサバイバーである院外の柿本様にご講演をいただきましたが、病院内スタッフによる講演を多く取り入れる形にしました。

昨年度は約200人の方にご来場いただきましたが、今回は方向性を変えたこともあり、どの程度ご参加いただけるか正直読めませんでした。

諏訪市→茅野市→岡谷市と順番に開催地をまわしており、今回は岡谷市で実績のある岡谷カノラホールと決めました。

ご施設の事情で大ホールが使えないことがわかっておりましたので、小ホールでということになった次第です。

大腸がんをテーマに、恐らく聞いたことはあってもあまりイメージがわからない方が多いと思われる人工肛門を正しく理解していただきたいということと、手術や薬物療法の進歩もお伝えしたいと欲張って内容を詰め込みました。

より多くの方に受講していただきたい一心で、例年より、新聞広告をはじめとして広報に力を注いで本番に臨みました。

会場のキャパシティーは理解しており、ある程度座席を臨機応変に増やす体制で臨んでおりました。

うれしい悲鳴ではありましたが、会場規模を上回る400人を越える方々にきていただき、会場内に入れない方や、入れた方でも窮屈な思いをさせてしまったことは、企画責任者として大変反省をしております。本当にご迷惑をかけ申し訳ありませんでした。

内容に関しては、手術シーンや、人工肛門の実際など皆様の理解に役立てていただけたのではないかと個人的には考えております（これから回収させていただいたアンケート内容を詳しく解析していきたいと思っております）。

特に、今がんと実際に戦っているとは思えない程 お元気で力強い柿本様からエネルギーをわけてもらえたと思う方は、私だけではないと信じています。

今回の反省を次年度以降の講演会の企画運営に活かしてよりご満足いただける講演会にしていきたいと思います。

また、講演会で私自身が情報提供したように、現在は技術の進歩に伴い治療体系が変わる狭間にありますので、この諏訪地域に居ながらにして、先進的に日本および世界標準の治療が皆様に届けられるように日々精進していきたいと思いますので、安心してお任せいただければと思います。



出席いただいた方々はもちろん、スタッフ、プライベートとして講演に参加いただきながら急な会場設営への手伝いをしてくれた当院職員など、関係した全ての方々に感謝の意を表して今回のコラムは終わりたいと思います。ありがとうございました。

では、また。



ご来場ありがとう
ございました。

